

# せいりゅうじ 清瀧寺

古賀市薦野 665 番地

西山登山口から左へ、清瀧の集落の間を登りつめた不動山の山腹で標高 120 m のところにあります。

天台宗に属し、古刹ではありますが戦火にもあい創建ははっきりしません。

一段上の薬師堂境内の東側に大日堂があり、堂内の

両界大日如来種子の刻まれた石碑に明徳 2 年 (1391) の銘があります。この石碑は十七坊記念碑とともに鎌倉時代に遡るかもしれない貴重なものとされています。また昔は十七の僧坊をもち、大寺院であったことが想像されます。

清瀧寺はもと薬師如来が本尊であったと考えられ、その御開帳法要が 17 年ごとに行われています。平成 2 年 (1990) はその年に当り薬師堂が改築されました。



▲薬師堂



▲薬師堂本尊薬師如来像



▲両界大日如来種子の刻まれた石碑



山門の横から薬師堂へ登る石段の前に薬師如来の種子、  
 兼 (ベイ) 文字の額の鳥居があります。これは<sup>しんぶつしゅうこう</sup>神仏習合を  
 語るものでめずらしいものです。



▶薬師如来の種子額の鳥居



▲棟札



▲毘沙門天騎士像

清瀧寺は<sup>こものたちばなけ</sup>薦野立花家からあつく尊崇されており、<sup>たちばなますあつ</sup>立花増厚  
 の棟札などでそのことが伺えます。

<sup>びしゃもんてんきしぞう</sup>毘沙門天騎士像は高原の乱 (1637 ~ 1638) の時、立花氏  
 も出陣し、守り本尊として戦場に持って行ったと伝えられて  
 います。厨子は<sup>おい</sup>笈として背負うように作られています。

薬師堂の横に<sup>じゅうしちぼうきねんび</sup>十七坊記念碑が  
 あり、現在も十七坊寄りが行わ  
 れています。この記念碑の下部  
 の石組にいくつかの板碑があり、  
 以前は碑の左側に約 20 基ばかり  
 並んでいたものだそうです。こ  
 の十七坊によって<sup>はなつ</sup>花摘みの行事  
 が今も受け継がれています。



▲十七坊記念碑と板碑

黒田五代藩主宣政が藤井  
 政暉に授けた「釈迦十六善  
 神図」は<sup>とさみつもち</sup>土佐光茂の作とい  
 われています。



◀釈迦十六善神図

そのほか清瀧寺には福岡県指定天然記念物のイスノキ (昭和 54 年 3 月 6 日指定) とシダ  
 レザクラ (昭和 53 年 3 月 25 日指定) がありましたが、桜は残念なことに平成 11 年枯死の  
 ため指定解除となりました。



▲ありし日のシダレザクラ



▲イスノキ

